

ことである。所で今日一般の女子の理化學的數學的知識の應用と云ふことは大に缺如してゐる。然かも理科や算術科で單に知識を目と耳から注入して足れりと爲すものが少くない。之は誠に一日も早く改善せねばならぬことである。手工教授は之が缺陷救済の上に大いに其の本領を發揮することに努むべきであると思ふ。即ち少くも前記の範圍に於ける原料工具についてのその性質・用途・構造・使用法等を明かにし、更に各種の工作法を理解せしめて、以て製作物の用途と光・熱・水等との關係及び製作物其の物の安定荷重使用上の便否、原料の利用等の適否を推解し得るだけに理化學的知識の應用徹底を期したいものである。

それが爲には他教科との關聯教材の連絡統合的取扱に注意する事が第一に肝要であることは勿論であるが、なほ從來往々見るが如く技術的機械的練習を過重して爲に其の作業の計畫處理即ち原料工具に關する説明及び工作法に關する兒童の考案、製作品に對する批評等を忽略に附する様な事の無いやうに注意せねばならぬ。例へば小刀の手入を爲せるにしても漫然砥石に當てさせるでなく、前に抄録せるが如く其の構造なり研磨法なり砥石の種類なり使用法なりを會得し、其の目的と方法を能く意識して之を爲さしむるやうにせねばならぬ。嘗て或る學校の尋常五年の女兒に「何の爲に小刀を研ぐのか。」との問を發したところが、「よく光らすため

す。」と答へたものがあつた。之が無智寧ろ滑稽は憫笑すべきであるが、或は今日の教育にはかゝる不徹底事が少からず繰返されつゝありはせぬかを私は慮るのである。又缺を使ふにしても尋常六年頃になれば理科で「挺子」の理を學ぶことになつてゐるから、能く二力の釣合、努力の經濟關係等を實地に自ら試みるとか、又及物で物を削つたり裁つたりする場合にしても楔の理は之を解する程度に進んでゐないでも、實際にその使ひ方により切味に鋭鈍の別を生じ努力の上に差を來たすことを自ら考察するといふやうな態度を馴致することに努めねばならぬ。

それから今一つ注意すべき事は、製作品の實用を過重してはいかぬと云ふ事で、前に述べた機械的練習過重の弊もこの誤れる實用過重の弊に基因することが多いのである。

抑も眞正の意味に於ける製作品の實用といふことは全然專業者の言ふ事で、之が爲には分業に由る作業範圍の局限即ち専門的たること、技術の固定的熟練との二要件を具備せねばならぬ。小學校では教育の實際的陶冶を希ふ上から實際生活に役立つべき智識技能を練るといふことを其の根本方針と爲すべきである。換言すれば廣義の生産的能率の向上をはかることをば小學教育の根本義となさねばならぬのであるが、僅少なる教授時間に於いて、心身發達の未だ幼稚なる兒童に對して、然かも一般的陶冶を目的とする小學校にありて手工教授に對して要求

する所の兒童製作品の實用といふことは最も低級のものでなければならぬといふ理は至つて明かである。高等小學校に進めば稍其の要求の程度を進め得べけんも、猶通じて之が要求よりも知能の一般的陶冶を先きにせんければならぬと信するのである。若し之が本末を誤つて製作品の實用過重の弊に囚はれるやうな事があると、或は模倣的製作を過重して其の結果の目前的の美を喜んだり、或は教師が妄りに加力して爲に却つて兒童の知能の練磨を阻止しながら其の成績を誇示したり、或は技術の授與を専らにして兒童の智力を練るべきことを等閑に附するが如き諸弊を胚胎し、延いて此所に唱道せる理化數學的知識の應用練習と云ふことも自ら閑却せられることにならうと思はれる。之は實際家の大に戒心せねばならぬ點である。

更に今一つ考ふべき事は材料の利用と精力の活用に關して經濟的の思慮を練るといふ事である。女子は概してこの經濟的思慮が乏しいと言はれてゐるが、實際に小學校の兒童について見ると、女兒には濫りに材料の美を競ふとか、材料の經濟的利用に關する考が疎いとか云ふ傾が著しいやうである。然ればこの點について常に十分の注意を拂ひ、進んでは廢物利用の途をも講せしむるやうにしたいたいものである。又精力の活用即ち經濟的消費と云ふ事については一層之が指導に注意する必要がある。計畫を確めずして作業に従事するために徒勞を演ずるとか、或

は寸法角度の不正確より思はぬ徒事失敗を爲すとか、或は刃物が切れないために勞する割に効果が擧らぬやうなことをするとか、或は作業の順序を正さない爲に無駄骨を折ることがあるとか、或は折角理科で力學的事項を學んで居るが之が實地の應用に注意しない爲に工具の使用上に徒勞が多いとかいふ風な事が甚だ多いのである。

由來手工教授では、勤勞を好む習慣を養成することをばその目的の一つとしてゐるが、其の勤勞と云ふことは無智の農夫や大工等がその精力の利用には一切關心せず唯仕來りの儘見覺えた通りに朝から晩まで一生懸命に力任せに働くといふやうな意味のもので満足すべき事ではない。眞に教育せられたる勤勞といふものは精力の經濟的利用を意味するものでなければならぬ。徒勞多き勤勞は全然無意義である。然ればこの點に能く注意して、前述の諸弊徒勞を少からしめ、眞正の意義ある勤勞の基礎的習慣を養成するやうに努めねばならぬ。而してこれには理化學的及び數學的知識の應用練習に相關係するところが少くないことは云ふまでもないのである。

3. 工業に關する基本的の常識及び趣味の養成に努むべき事。

我が國の今後の國民教育の上に於いて「工業に關する基本的の常識及び趣味の養成。」が其の

都市たると農村たるとに論なく、喫緊なる一事たるべきは、最早や議論を要しない問題であると信するのである。然かも今日の女教師は一樣に工業に關する常識が貧弱で之が趣味を解せるものが甚だ少いやうである。

現在小學校に於ける各教科目を通じて採擇せられて居るところの工業的教材を通覽するに尋常小學校に於いてすら次に記す通り廣汎多種に涉つてゐるが、手工教授は之と相連絡して工業に關する基本的の常識を固め、更に製作力の練磨によつて工業的勞作に對する趣味を解せしめんことを其の目的とするものである。然るに教師その人がこの種の智能と趣味を欠いてゐるやうなことでは到底これが教授の徹底を期する事は出來ぬ。

夫れ小學校に課すべき手工たるや、之を一般工業の上から見れば誠にその一端に過ぎない。之によつて今日の進んだ機械工業や化學工業等の一斑を窺せしめんには餘りに縁遠く感せられるが、然し路傍に拋棄せられてある一筋の藁繩も之を化すれば純白の半紙を得べく、一葉の紙は以て鶴を折つて樂まるべく、袋を作つて實用に供せらるべく、又一片の竹屑はトンボを作つて空に飛揚せしめ得べく、之に着色して技巧を加ふれば美しくして琴を得べく、また一塊の粘土を化して皿とし盃とし花瓶となすを得るが如き程度に於いても、能く工業の恩恵を感せしめ

職工者の勞苦に對する同情と好感を進め得べく、これが人智と技巧の向上に對する欲求の度を高むることは出来る。予はこの意味に於いて小學校の女兒の手工教授上工業に關する基本的常識及び趣味の養成に努めん事を主張すると共に、女教師に對して大いにこの種の修養に努力せられんことを希望するのである。

就いては小學校兒童に對する工業的教材の解説及び其の取扱方について詳記したのであるが、餘りに本章が長くなるから、此所には單に手工教授に關係の密なる事項の各教科書に表れたるものゝみについてその梗概を述べることに止める。

歴 史 科

尋常第五學年

一、韓土より技藝の傳來

應神天皇の時百濟より鍛工卓素を貢す。さればこれより舊來の鍛冶術の外に更に朝鮮風の術も起れり。

雄略天皇は百濟より陶工を召し給へり。

一、佛教の傳來と技藝の進歩

第一節 手 工

佛教傳來して漸次興隆するに従ひ堂塔佛像の多く造營せられし結果、建築彫刻繪畫等の技藝著しく進歩し、其の術頗る精巧の域に達せり。

一、奈良時代に於ける美術工藝の進歩
當時諸器物の精巧なるものを製出せしことは正倉院寶庫に藏せらるゝ御物等によりて知るを得べし。

地理科

尋常第五學年

栃木縣 足尾銅山より多く銅を産す。

福島縣 漆器を以て有名なる若松あり。

會津塗は泥下地を用ひず、すべて澁下地なるが故に堅牢にして剝落する處が少い。會津燒（若松市附近）相馬燒（中村）を産す。會津燒急須土瓶は愛知岐阜産に比し強熱に耐ふる力強きが故に内外共に賞用せらる。

宮城縣 仙臺より埋木細工を産す。

埋木は質が緻密で光澤がある。黒褐色にて自然の木理を存してゐるのが特徴である。成生は

太古土中に埋没せる木材が空氣に觸れずに多少の炭化作用を受けたものである。埋木細工の産額は一ヶ年四萬圓以内に過ぎない。

岩手縣 釜石は附近に我が國第一の鐵山あるを以て著る。

秋田縣 能代は木材の集散地にして小坂鍍山は銀銅の産出多きを以て著る。
能代の春慶塗は古來有名である。

静岡縣 静岡は多く漆器を産す。静岡より東北富士の裾野に至る地方は製紙業甚だ盛なり。

静岡産漆器中竹製漆器、紙製漆器は特に有名である。又此の地には竹細工が盛に行はれてゐる。濱松は西洋樂器及び帽子の製造を以て知られてゐる。

山梨縣 甲府より水晶細工（珠玉・印材・文房具其の他裝飾品）を産す。

愛知縣 瀬戸は陶器の産出を以て著る。

本縣下は本邦第一の窯業地であつて、最も多種の陶磁器に富んでゐる。瀬戸焼を以て最とし常滑焼亦著る。當地の七寶燒も亦著名である。

岐阜縣 長良川の上流地方には多く紙を産する所あり。多治見地方は陶器の産地なり。

本邦第二の製陶地である。美濃焼を最とす。多治見をその集散地となすを以て一に多治見焼

と稱するのである。普通の用品を主とし且つ價が安いから需要が甚だ多いのである。岐阜提灯の名が世に著れてゐるが其の最近の海外輸出額は五萬圓に上つてゐる。

長野縣

木曾の檜材は著名である。

新潟縣 佐渡には名高き金山あり。

富山縣 高岡は銅器漆器の産地として著る。

高岡は日本唯一の銅(鐵)器の産地である。此處の漆器は彫刻塗銷塗がその特色である。

石川縣 金澤より陶器を産す。(九谷焼の名あり。)輪島は漆器の産地として知らる(質堅硬なり。)

京都府 美術工藝品の産出多く織物陶器漆器など最も著る。

陶器では粟田焼清水焼樂焼等が主要なるものである。美術的手工が優つて居るが、上等品に屬するものが多くて價が不廉である。

三重縣

御山木細工は御山の老杉を以て作つた細工物で箸・菓子器・小箱・短冊掛・盆等がある。萬古焼

は四日市附近が主産地である。釉藥無き一種獨得の陶器である。

和歌山縣 黒江は多く漆器を産す。新宮は木材の集散地なり。

大阪府 商工業極めて盛なり。堺は及物の産地として有名なり。

兵庫縣 神戸はマツチの産額甚だ多く(全國第一)又大なる造船所あり。生野鑛山より銀銅を産す。

淡路焼は堅牢なので近年大に其の需要を増してゐる。

岡山縣 岡山以西には麥稈眞田、花菴等を産する所多し。

廣島縣 吳軍港には造船所と製鋼所とを有す。尾の道附近に多く蠟表を産す。(原料蘭の優良なるを以て著る。)

尋常第六學年

四國地方 東北部に麥稈眞田の製造大に行はる。(麥稈眞田は香川縣の産最も多く岡山縣は之に亞ぐ)中部以西には多く紙を製す。(高知縣の製紙最も著る)

佐賀縣 有田は多く陶器を産す。

伊萬里を集散地となすが故に一に伊萬里焼といふのである。本縣は善良なる陶土の産出を以

て有名である。

鹿兒島縣 鹿兒島より薩摩焼を産す。

昔時は大に賞用せられたが、價が不廉なると、京都粟田に於て盛にその模造品が製出せられるので現時は大に衰へて居る。

臺灣地方 平地には榕樹竹類芭蕉等よく茂り、山地には樟の巨大なるものあり。

北海道地方 林産物の重なるものは蝦夷松、檜松等にして鑛産物は石炭を主とし硫黄の産亦少からず。

樺太地方 山林は其の面積頗る廣くして蝦夷松檜松落葉松等多く鑛産物は石炭を主とす。

理科

尋常第五學年

松 あかまつとくろまつの別。年輪のこと。材の横断面と縦断面のこと。

竹 幹のこと。横断面と縦断面。年輪無し。

栗 栗の幹は太くしてその内部には年輪を有する堅き木材あり。

馬皮、蹄は諸種の器具を作るに用ひられる。

蹄は馬爪と稱し籠甲の模造品を作るに用ひられる。

牛皮、角、骨等は諸種の製造品の材料となる。

土 岩石が長き年月の間に空氣にさらされ雨に打たれ、又は木の根などに侵されてこまかく碎けて土と成る。

眞土は植物質を多く含み、赤土は酸化鐵を含んでゐるのである。

岩石 岩石は鑛物より成る。花崗石は石英、長石、雲母より成れる岩石なり。

石英 ガラスと水晶との區別。

草入水晶の中にあるものは草にあらずして電氣石、綠簾石等である。水入水晶には滴状をなせる液體を含んでゐる。

長石 ガラスより硬けれども石英よりは稍軟し。長石の分解せるものは陶磁器の原料に供せらる。

雲母 白雲母は爐の小窓、白熱瓦斯燈のホヤ、電氣の絶縁物などに用ひらる。

黄鐵鑛 主に其の中に含まる、硫黄より硫酸を製す。ペニガラはこの鑛物より製せらる。

石灰岩 大理石は建築材及び裝飾材として用ひらる。石灰はセメント、漆灰の原料となる。又

消毒劑肥料等に用ひらる。

空氣、水、熱の性質と其の應用。

水素 風船はゴム引の絹布を以て造れる大なる囊に水素を満したるものなり。小兒の玩ぶ風船球は薄きゴム球に水素を満したるものなり。

尋常第六學年

川 水力の利用と工業との關係。

流水の作用、粘土の成因。

水成岩 粘板岩は割りて板状のものとなし易し。屋根を葺くに用ひられ、硯石砥石などにも作らる。砂岩は其の質の良きものは建築材料、荒砥等に用ひらる。

火成岩 黒曜石・輕石・安山石・花崗岩等のこと。

硫黃 マツチ・火藥・硫酸・彈性ゴム等の製造に用ひらる。

石油 原油・燈用石油・揮發油・器械油・石蠟のこと。

石蠟はパラフィンともいひ蠟燭を製するに用ひらる。ワゼリンは石油より製するもので金屬器の面に塗りてその銹を防ぐに用ひ、又膏藥の原料にも用ふ。

石炭 石炭は燃料に供せられ、又これよりコークス・石炭瓦斯・コールタール・染料・藥品等を製し、其の用途甚だ多く工業上最も大切な礦物なり。

鐵 鑄鐵(銑鐵又はヅクとも稱す)は通常鑄にて細工するを得れども其の質脆ければ鑄にて打ち展すを得ず。鑄物となすに適す。鋼は鑄鐵の中より炭素の大部分を除きて製したるものなり。鐵器は銹び易きものなれば油、石墨などを塗りて銹を防ぐ。

銅 銅板・箔・針金・綠青等のこと。

亞鉛・錫・鉛 亞鉛は板となして種々の用に供す。亞鉛を鍍したる鐵板(トタン)鐵線はバケツ、屋根板、電信の針金等として廣く用ひらる。錫は之を展べて薄くし物を包むに用ひ、又少量の鉛を混へて種々の器具を造るに用ふ。ブリキは錫を鐵板に引きたるものなり。鉛は多く管となして用ひ錫と混ぜて白鐵はんだを造る。又彈丸活字等を製する材料となる。

眞鍮・青銅 合金のこと。及び各性質用途のこと。

金銀 鍍金銀のこと。及び各性質用途のこと。

酸 硫酸・鹽酸・硝酸の各性質及び用途。

アルカリ 石灰・苛性曹達・アンモニヤの各性質用途。

鹽類 中和のこと。及び金屬と酸とより鹽類の生ずること。

重力 鉛直線・垂直・水平面のこと。

挺子 二力の釣合のこと。及びこれが應用に關すること。

電氣 摩擦電氣のこと及び導體不導體の事。

電流 電池電流のこと。

國語讀本

卷の二

キノハ モミチノハラ一マイヒロイマシタ。ソレヲモツテウチヘカヘツテ、カミヲソノカタチニキリマシタ。……

天ジンナマ オヤネニハウメバチノ大キナモンガツイテキマス。

卷の三

タケ 竹ハイロイロナヤクニタチマス。……筆の軸・物尺・笛・杖・箆・籠・扇の骨・竹馬・簾・竹のたが・物干竿・國旗竿・水棹等。

卷の四

ワラ 赤や青や黄色にそめて麥わらざいくにもつかひます。むぎわらざいくにはかごやおもちやや色々なものがあります。

ノシ 起原と用途。

卷の六

日本 日本には山が多い。どの山にも木がよくしげつてゐる。松・杉・ひのきなどが一面にはえてゐる。……

ヤクワントラツピン 金銀銅鐵の性質及び用途。

材木 材木には松・杉・ひのき・栗・けやきなどあり。もつとも多く用ふるものは松と杉とにして上品なるはひのき、かたきは栗なり。松・杉・ひのき・けやきは板又は柱として家をたて、橋をかけ船を作るに用ふ。杉は電信柱に用ひ又箱・桶樽などを作るに用ふること多し。栗はかたくして長くくさらざれば家のごだい又は鐵道の枕木などゝす。桐はやはらかくして弱き木なれば……軽くして美しければ机本箱筆筒履物などを作るに用ふ。……そまごびきごだいぐさしものしの事。

むね上げ 家のごだい・はしら・けた・はり・つか・むなき・ぬきの事。

手のはたらき 手はすべての仕事のもどです。家でも國でも手をよく働かせる人が多ければ多い程盛になります。…… 鑿一つで見事な彫物をこしらへたりして人を感心させるのも手のはたらきでせう。…… 何事によらず手の働のよいのを上手といひ、手の働のわるいのを下手といひます。…… 手ばかり動かしてもちゑがなければ何の役にも立ちません。

焼物と塗物 やきものをつくるには土又は石のこをねりかためて乾し、かまごに入れて焼く。かくして出來たるものをすやきといふ。我等の常に用ふる茶碗・皿・鉢の類はこの素焼にうはぐすりをかけて再び焼きたるものなり。花鳥山水人物などの模様は釉薬をかくる前にゑがく。

塗物はくりたる木又は組合せたる木竹又は紙などにうるしを塗りて作る。塗物に黄・赤・黒・青などさまざまの色あるは皆漆に色を着けたるなり。漆の上に金又は銀にてゑがきたるものをまがねといふ。

家の紋 菊水・いほりもこう・二つともゑ・三つともゑ・三つ星・四つ星・九曜星・梅ばち・櫻・たちばな・三がい松・さゝの雪・上り藤・下り藤・たかの羽・鶴の丸等の事。

西洋紙と日本紙

1. 西洋紙の用途——新聞紙・書物・葉書・切手・印紙等。
2. 日本紙の用途——障子・扇・うちほもどゆひ・水引・からかさ・合羽・御札・御幣等。
3. 得失——西洋紙は裏表どもにつかはれる。水にぬれても裏へは通らない。破れ易くて強みがない。日本紙は表だけしか役に立たない。こよりにして物をしぼることが出来る。水にぬれるとすぐにべたべたになる。

卷の八

働くことは人の本分 人の幸福は皆自分の働で産み出す外はない。何もしないで遊んでゐるのは樂なやうに見えるが却つて苦しいものである。働くことは人の本分である。

ワザクラベ 百濟川成と飛驒工との術競べ。

かち屋 刀鍛冶の話。

マツチ マツチの製法

外國へ輸出するものゝみにても一年間一千万圓の金高に達し我が國輸出品中重要なものゝ一つとなれり。

卷の九

第一節 手 工

汽船汽車の發明 フルトンとスチブソンのこと。……如何なる發明も一度や二度の不成功で氣をくじくやうでは出來上るものではない。

卷の十

保安林……森林の効用かくの如く著しきを以て近年一定の森林を指定し其の樹木を一時に伐取することを禁せり。かく保護せられたる森林を保安林といふ。

家 木曾の檜・吉野の杉・丹波の松。熱き國しげる林に生ひ立ちし我、タガヤサン。床柱・梁・棟木・桁・角柱・主柱・ねだ・たるき・ぬき・つか・床・それらの務をもちて……何一つ取外すともたちまちに家は崩れん。

本

1. 活版刷——木彫・銅版・本刷・手刷・機械刷のこと。

2. 木版刷——版下、版木のこと。

花産 磯崎眠龜一身一家を忘れて熱心にこの業に志し機械を發明し國産を廣むるに至れり。近年の輸出高は年々五六百萬圓を下らすといふ。

模様と色

1. 直線を適當の長さに切り一定の間合を置きて或は縦に或は横に或は斜に並ぶる時は美しき模様を生ず。

2. 曲線は直線よりもやはらかなる感覺を與ふるを以て曲線を用ふれば更に美しき模様を得べし。

3. 模様には全く無意味なるものあれども草本花鳥蟲魚等の形を變じて作れるもの多し。

4. 模様の工夫は無限に多し。

5. 模様の種類々の色ごりを加ふるときは一層其の美しさを増すべし。色ごりするには色の調和を考へざるべからず。……欄間の彫刻物唐紙の地紙をはじめ着物の縞模様、焼物塗物の繪模様其の他菓子類に至るまで我等の衣食住には模様色ごりをほごしたるもの多し。

6. 種々の模様を工夫し又麗しき色ごりを案ずるは工藝美術に於ては極めて大切なる事とす。

卷の十一

分業 人は其の身體才能などによつて仕事に適不適がある。分業法に依ると人々が其の最も適した仕事をすることになる。又毎日同じ仕事をくりかへすから誰も早く其の仕事に熟練する。随つて良い品物が出來て製造高も多くなる。……又分業によつて一つの仕事にばかり

掛つて居ると自然それに精神をこらすことになるから其の仕事に適する器具の改良や發明をすることもある。……分業でする仕事は皆全體の一部分であるからそれ／＼の仕事をするものに共同一致の考がなければ分業の目的は達せられない。文明の進歩するに隨ひ分業は益々發達して今日ではどんな品物を製造するにも分業法に依らないことはほとんど無い。

車と船 上古の舟車と今日の汽車汽船とをくらべんには誰か人智の進歩の大なるに驚かさらん……汽車汽船の進歩は世界諸國をして日に益々接近せしむ。……人智の進歩は際限なしといふべし。

猫車・棟車・自轉車・荷車・人力車・絲毛車・電車・自動車・乗合舟・漁船・荷足船・高瀬船・茶船・屋根船・帆前船・砲車・材料車・輻重車・軍艦・航空機等のこと。

臺灣から樺太へ 中部の山林には樟・松・杉・檜・樅等の繁茂著しく、竹にも直徑一尺以上のものこれあり是にて竹筏といふ臺灣特有の船を造り候。又竹を原料として竹紙を製造致居候。阿里山の檜材は世界無比の良材と稱せらるゝものにて中には直徑二十尺餘一樹にて千五百尺の材積を得るものもこれあり候由山林の富のみにても無盡藏と申すべく候。

畫工の苦心 泉州堺の一國寺に於ける鶴と槍の繪の由來。

紡績 我が國の機械工業中最も盛なるは紡績事業にして殊に綿花紡績其の大部を占む。年々一億圓の綿花を輸入して綿布とし、内國の所用をみたして尙海外に輸出するもの五千萬圓以上に及ぶ。……蠟燭の心とする太き絲、蜘蛛のいとこの如き細き絲、細大意のまゝにして手紡の如く不揃となることなし。機械の力は驚くべきものにあらずや。

蠶の農工業 蠶の絲を吐きて繭を造るは紡績の業に等しく葉卷蠶の絲にて葉をつり合するは裁縫の業に同じ。蜜蜂の蜜を吐き、又たくみに巢を造るは醸造の業と建築の業とを兼ねたりといはんか。

樺太より臺灣へ 森林は内地及び北海道に於ては見るを得ざる廣大なる天然林にして檜松・蝦夷松落葉松白樺等一面に生ひ茂り之を伐採せば少からぬ収益と相成るべし。

卷の十二

造船の話 船を造るには先づ綿密な設計圖をこしらへる。其の圖は船の切斷面及び構成等を何十分の一にした縮圖で多人數の技師や技手が永くかゝつて製圖するから大きな戦艦などになると設計圖ばかりで數百枚もあるといふ。設計圖が出来上ると細密な構造分圖を各工場に廻し必要な部分は實物大の圖を作つて始めて製造に着手するのである。

鍛工場鑄造場木工場等何れも大規模にして盡く蒸氣や電氣の力を利用する。……船臺・盤木・龍骨・肋材・甲板・梁・外皮板・船室・倉庫・橋・機關・船渠等のこと及び我が國に於ける造船所のこと。

國産の類 森林は全國の山野おほはぬ處なく、殊に名高き木曾吉野樺太臺灣太古よりきこりの入らぬ林あり。燒物類は瀬戸九谷有田清水薩摩燒、漆器は静岡輪島黒江高岡會津塗、世界無比なる七寶の名は海外に轟けり。とぎ出し蒔繪の精巧も我が工業のはこりにて中國筋の花蒔紡績絲とマツチとは輸出年々増すばかり。千里比隣の今の世は有無互に相通じ世界各國皆市場愈々産業勵みつゝ國の富をばふやせかし。(以上)

4. 計畫的にして正確なる作用に慣れしむべき事。

「先づ仕事の全計畫を確めてから部分の作業に進む。」といふことは、何の事を爲すにも肝要なことで此用意と順序に依らない仕事には徒勞や失敗が多いのが常である。然るに兒童はその全計畫を確めずに直ぐ部分々々の作業に着手しようとする傾がある。之は智力の發達程度が未だ觀念的である場合に於いては自然の勢と見るべきであるが、漸次長するに隨つて計畫的作業に慣れしむるやうに指導し陶冶を加へる事が大切である。殊に女兒に對してはこの種の教材を選

ぶ上に又其の作業を指導する上に一層これが注意を要すると思ふ。具體的に云ふならば粘土細工で圓錐形の箸立を作るが如き場合にしても其の形なり大きなりを出鱈目に作らせずして、先づ臺の大きさと其の形、筒の太さと高さ等の各關係を考へその調和の如何を按じて工作圖を描かしめたる後、何れの部分より順次細工するが至當なるかを確めて後始めて其作業に着手せしめるやうにする。或は厚紙細工にしても、全部の製圖を終つて其の正歪を確めた後でなければ裁切らしめない。上貼りに移つても先づ全部の用紙を裁ち合してから糊着けに掛らせるといふ風にする。又割竹細工の場合などには常に大體 (一) 小刀の手入、(二) 工作圖を描く、(三) 材料の幅を削り合す (四) 次に厚さを削り合す、(五) 丈を定める、(六) 材料面に圖取る、(七) 部分の細工に進む、と云つた風な順序によらしめるといふが如く、一々計畫的に秩序的に作業せしめ漸次之に慣れしめるやうに導くべきである。

それから又兒童は一般に仕上げを急ぐ風があつて、且つ省察力が幼稚であるが爲に正確鄭重を缺く所謂濫作の弊に陥り易い嫌がある。例へば尺目を見るにも定規を當てるにしても甚だあらつばい粗略な遣り方をする。然かも一度描いた製圖などについては更に尺や定規を當て、自ら之を檢察するならば、其の正確を期することが出来るのであるが多くはそれを怠る。然うし

て厚紙細工などで裁ち合した後に不正な部分を生ずると直ぐその部分だけを裁ち揃へると云ふ風にするから、愈々全形は不正確なものとなる譯である。又上貼りをするにもその用紙を素地にあてがつて裁ち合すものが多くて所定の寸法に依り、終始正確を期して遣ると云ふ用意と努力が甚だ乏しい。教師にもこの大切な指導を閑却してゐるものが少なくない。竹細工などで凡そ所定の寸法通りに削り上げた頃今一削りと思つた手が狂つて深く切込んだといふ場合に、この削り込みを無くするまでに削り直すと所定の寸法よりは薄いものが出来るが、その刀痕を存することは見苦しいと云ふので、寸法の正確を缺いても削り直させるのが普通である。此の事は一寸考へると當然の事のやうであるが、教育的陶冶の徹底を期する上から考へると、斯かる指導は不知不識の間に糊塗的弊風を助長するものであつて、技能を正確ならしめ正確を尙ぶ徳操を養成せんが爲には決して是認すべき事ではない。即ち成績品に如何なる損傷が表れようが豫め寸法を定め置いた以上は其の寸法通りにして置くことを本體として細工せしむべきである。予は上級の兒童に對してはかゝる場合に「その失敗の刀痕を存する事こそ、自己の技能を向上せしむる上の恰好の記念なれ。」といふことをよく言ひ聞かして自己省察の資料たらしむることに努めてゐる。

兎に角一般の兒童にはこんな風な通弊が認められる。そこで可成正確を第一義とする細工を多く課するやうにして之が指導を誤らぬやうに注意することが必要である。如上の見地よりするも又既に第一章に於て述べた通り、今日の一般女子には計畫的に事を處理することが不得手で且つ正確を尙ぶ念慮が乏しいものが少なくないと云ふ事由に鑑みるも、手工教授に於いて計畫的にして正確なる作業に慣れしむることを重要な一方針となさねばならぬ事は自明の理であると信ずる。そこで以上述べ來つたところの

1. 力役的作業を多く課する事。
2. 理化數學的知識の應用練習に努むる事。
3. 工業に關する基本的常識及び趣味の養成に努むる事。
4. 計畫的にして正確なる作業に慣れしむる事。
5. 女子の一般長所たる優美綿密の特性助長に努むる事。

の一項を加へて以て今後の女兒に對する手工教授の方針となすべきである。然れば予はこの方針に基いて、編物袋物の如き教材の外に左の諸教材をば小學校の女兒に對する手工の模式的教

材として全國普通の地に於いて之を課せらるゝやうにならんことを希望するのである。然して各地の事情を配量せる所謂郷土的教材をば適宜之に附加按配すればよいと思ふ。

一、女兒に課すべき手工の模式的教材

1. 粘土細工

庶物の形體上の知識を確め、圖案的意匠を修練せしめ、手指の微細なる技巧を陶冶せんが爲に、全學年を通じて之を課するがよい。細工の主要形式的題材左の如し。

イ、丸物細工

内部の充填せる細工にして庶物の外形輪廓を表さしむることを主とするのである。特に粘土の「微細なる曲面的製作。」に適せる特質を利用發揮せしむることに努め、簡易なる筋彫肉彫の練習を併せ課すべきである。その模式的題材左の如し。

尋常第一學年 球・鏡餅・瓢箪・栗

尋常第二學年 啞鈴・文鎮・桃

尋常第三學年 胡瓜・南瓜・柿

尋常第四學年 果實類・花瓶

尋常第五學年 魚類・鳥類

尋常第六學年 犬・猫・兎

ロ、平物細工

粘土を薄くひらたく捻りて諸形を成さしむる細工である。

尋常第一學年 ちよく・皿

尋常第二學年 匙・木の葉皿

尋常第三學年 木の葉皿

尋常第四學年 盃・木の葉皿

尋常第五學年 皿・ちよく

尋常第六學年 菓子鉢

ハ、袋物細工

内部を空虚ならしめる。恰も前二者を併せた細工である。之に積上法と割接法の別がある。

積上法とは底板の上に粘土小粒を積み重ねて下部より次第に上に捻り上げしむる方法で、割接法といふのは先づ全形を整へしめた後に細き針金で割つて内部の粘土を掻き取り接合せしむる

方法である。本細工の正確なる練習は尋四以上の兒童に望むべきである。

尋常第四學年 コップ・花瓶・水入・揚子差(瓢形)

尋常第五學年 花瓶(据置と柱掛)壺

尋常第六學年 香盒・急須の類

二、指物細工

以上の三法は捻作即ち捻り方練習を主とするのであるが、之は粘土の平板を指合して種々の器物を作らしむる細工である。粘土の平板を作るには厚き定規と圓棒を使用せしむるがよい。之に併せて簡易な型物細工を課するも可なり。本細工も尋常四年以上の兒童に適當である。

尋常第四學年 繪具皿・筆洗の類

尋常第五學年 植木鉢・箸立

尋常第六學年 菓子鉢・筆立

2. 紙細工

イ、切貫細工

切貫細工をば大體上から自在畫的切貫と規矩的切貫との二つに分つことが出来る。

自在畫的切貫とは、規矩的方便物に依らないで主に缺を使つて諸種の庶物形や模様のようなものを切貫かして紙に貼らせる細工である。之は缺の使用に慣れしめ、平面形に關する理解を正し、配色上の觀念を興へ、糊着けの練習を爲さしむる等の目的で、尋常第一、二學年頃の兒童には之を獨立的に課しそれ以上の學年には厚紙細工や袋物細工と連絡して練習せしむるがよい。

尋常第一學年 舟・案山子・提灯・學校

尋常第二學年 時計・團扇・花瓶・槭の葉・烏・梅の花

規矩的切貫とは定規・尺・圓規等を用ひ主に小刀で基本的折方によつて、基本的の平面形や紋形や文字圖案等を切貫かせる細工である。之は平面形に關する幾何的觀念を確實にし意匠を練り尺・定規・圓規等の使用に慣れしむる上に有効である。尋常第二、四學年頃の兒童に特別に之を課して以上の學年では附帶的に練習せしむるが至當である。

尋常第三學年 三角形と六角形と菱形、四角形と八角形、五角形と十角形及び之が簡易なる

應用

尋常第四學年 三つ折六重の基本折方による應用切貫、四つ折八重の基本折方による應用、

五つ折十重の基本折方による應用。

□、厚紙細工

開展圖法の基礎的觀念を與へ、尺・三角定規の使用と製圖的描線法に慣れしめんが爲に尋常三年に於いて畫用紙細工を課するがよいと思ふ。その題材の主なるもの左の如し。

尋常第三學年 畫用紙細工・箱・塵取・鉛筆削屑入

而してボール紙細工は素地そのまゝを表すもの、素地を塗彩するもの、上貼りを施すもの、上貼りに紙を用ふるもの、布片を用ふるもの等を適宜按配して、尋常四年頃より之を課するを適當と思ふ。その主材左の如し。

平面的教材

尋常第四學年 絲卷・名刺挾(紙挾形)箸差

尋常第五學年 狀差

尋常第六學年 寫真挾(上貼りを施さざるもの)

立體的教材

尋常第四學年 立方體(蝶番一枚蓋、上貼りを施すもの)

尋常第五學年 文筥(長方體被蓋、上貼りを施すもの)盆・揚子立(上貼りを施さざるもの)
尋常第六學年 茶筒(圓壩形印籠、上貼りを施すもの)筆立、各種基本的立體形(上貼りを施さざるもの)

3. 竹細工

尋常第五學年以上に課するが適當である。着色練習には相當の時間を當てる必要がある。

イ、丸竹細工

尋常第六學年 柄杓・花生筒・笛

材料の得易き土地にては手拭掛の類をも作らしむるがよい。

ロ、割竹細工

尋常第五學年 箸・棗・孫の手・トンボ・籠類

尋常第六學年 匙・墨挾

○百聞は一見に如かず。百見は一試に如かず。

○眼を養へ、手を練れ、意思は鞏固となり、理解は鋭敏ならん。

○動めてもまた動めても動めても動めたらぬは動なりけり。

第二節 裁縫

一、女児と裁縫

裁縫は女子の特技として今後とも女子の天分を完うせしむる上に缺くべからざるものである。故に教育の實用的陶冶の上から見るに之が技能の熟達をはかるは誠に大切な事である。然し小學校に於ける兒童の發達程度に照し、心身の一般的陶冶上の要求に鑑みると、之を偏重する事を許さないのである。然るに現時に於いては小學校の女児に對する裁縫教授の成果を過大に要求するものが少くない。往々父兄などが學校へ一枚の着物の材料を持たせてやるに二箇月以上も掛ることがあつて、仕立て、來ると縫ひ方が拙いばかりか新調の布が手垢や塵埃で汚されてゐる杯と云つて裁縫教師に不服を申上げて來る。甚だしいのになると爲に教師が指定しても所要の材料を持たせて來ないものがあるといふ事をさへ見聞するのである。

随つて教師は苦心の餘り不見識にも妄りに加力して却つて兒童の眞の練習を阻止するやうな事をしたり、或は過度の課外作業を強ひたり、又技術の練習を過重して智能の修練なり徳操の

陶冶をゆるかせにするやうな弊が無きにしてもあらずである。於是、小學校の女児に期待すべき裁縫教授の成果に對しては特に慎重に考慮せねばならぬと思はれる。ところが従來は多くこれが研究を裁縫科の専科教員に委して學校長之を顧みず、男教師亦一切之に關せず、女教師すら直接裁縫教授の任に當らざるものは之が研究を閉却して敢て怪まないやうに成り來つてゐる。これは誠に遺憾な事である。事情はあらうが、せめて一般女教師が擧つて女児の將來に最も重大な關係を有するこの問題について考究の歩を進められるやうなることを切望する。

そこで予が日頃現今の裁縫教授に對して嫌らず思つてゐる事や、注意せねばならぬ點であると感じてゐる事項等を茲に概記して見ようと思ふのである。

一、所謂運針練習が徹底的に行はれつゝありや如何

運針の裁縫に於けるは恰も氣を付けの姿勢の體操に於けるが如く、其の巧拙は以て裁縫の進否如何を卜知するに足るべき基本的の技能である。

随つて之が練習は相應に重んぜられてゐるやうであるが、然し其の運針練習の指導が能く兒童の發達過程に應じて論理的に行はれてゐるであらうか。或は各學年を通じて毎時間その始めに五分間なり三分間なりの時間を割いて之が練習を爲せてゐるか、或は教材の都合や兒童の

優劣關係から生ずる時間の埋合せには常に運針練習を遣らせるとか云ふことはよく聞くところであるが、それが唱歌教授に於ける氣息發聲等の基本練習と同様に形式的に行はるゝばかりで其實効が乏しい嫌があるではないか。又等しく運針練習と云つても學年により兒童の程度によつて夫々所期の目的を異にし指導の方法を違へねばならぬ筈であるが、果してその各學年に於ける程度なり指導の標準が確立して居るであらうか。その毎時繰返されつゝある運針練習の場合に兒童は果して努力的興味を覚え、自發的に作業してゐるであらうか。特別に運針練習を爲す場合には姿勢なり要領なり成績などが相當に善いにもかゝらず、實物縫の場合になると姿勢や要領が亂れて運針の成績も劣つて來ると云ふやうな事實が存して居るではあるまいか。是れ茲に運針練習が徹底的に行れつゝありや如何を疑ふ所以である。

そこで之をどうすれば宜いかと云ふ事に就いては獨斷的ではいけない。實際教授に携つてゐるもの又はその技能を練磨せる經驗を有する女教師達が、共に能く主觀的に客觀的に考案商量すべきであるが、予の觀るところでは、第一に特別に時間を定めて運針練習を爲さしむるといふ事は全學年を通じて緊要な事に違ひないが、兒童をして實物縫の場合に於いて尙且つ運針練習の氣持を失はしめないやうに導くことが一層大切な事であると思ふ。それで實物縫を始める

頃にもなれば特別の時間に於ける運針練習はその時間に特に運針を練習せしむるといふのでなく、常時練習し來つた運針の成績を檢察せんが爲に特別の時間を割いて之を課すると云ふ方針を採つて、兒童にも左様に覺らしめて置くことにすればよからうと思はれる。

第二に各學年に於ける運針練習の主眼點に對しては、大體次の三階梯を認むる必要があると思ふのである。

1. 要領を習得せしむる事を主とする時期

尋常三年から四年の中頃までは運針の要領を習得せしむることを主とする時期と考へることが至當であると思ふ。即ち姿勢の要領から、臂の支へ方、手頸の動かし方、針の持ち方、運び方、布の持ち方、糸の扱き方等にわたる諸種の要領を正しく習得せしむることを主眼として練習せしめるのである。随つてこの時期に於いては筋を眞直にするとか、針目を揃へるとかいふ事はそれを目標として練習させることは宜いが、妄りに筋目を正しからしめんことを要求すると、爲に基本的な要領を亂すやうな事になる。姿勢が崩れるとか、指の運び方がいぢけるとか云ふ風になつて、却つて前途の發達を阻む虞があるから、能くこの點に注意してその程度に鑑み指導の主眼を誤らないやうにせねばならぬ。それでこの時期に於ける運針用布には通常縞物

を選んでもやうであるが、之は初歩から無地の布を用ひしむるよりは善い事であるけれども、若し小柄な綿物を選んで始めから其の筋を辿つて真直に縫はせるために之を用ひさせると云ふ事になるとよろしくない。なるべく筋の粗いものを用ひて、針を運ぶべき大體の方向を示し、その直否の省察に便せしむる位の方針で綿物を用ひねばならぬと思ふ。それから又針目の大きさについても始めから餘りに小さく縫はせることを要望してはいかぬ。粗目にして手指の働を自由に思ひ切つて縫ひ習はせるやうに仕向くべきである。

針の長さや太さについてもこの時期では指の長さとその筋肉の發達程度とに應じて特別に適當なるものを選ぶ必要がある。

2. 正しく縫はしむることを主とする時期

次に尋常四年の中頃から五年にかけては正しく縫はせることを主として指導すべきものであらうと思ふ。即ち(一)針目を揃へる事、(二)縫筋を真直にすることの二つの要求を主として練習せしむべきである。ところが往々見る所では尋常四年や五年に於いて既に一定時間に多く縫はせることを競争させるやうな方法を濫用して居るのがあるが、之は甚だよろしくない。蓋、此の時期で若し運針の迅速を強要する事になると、どうしても正確なる運針の技術を練ること

が出来ず、所謂拙速の弊を生じて訓練上にも宜しからぬ結果を呈することになる。そこで此の時期の児童には正確丁寧に作業せしむることを主とし、其の運針成績に對しては量よりも質を重んじ児童をして其の針目の揃ひ具合なり縫筋の直否なりを常に自ら省察し、その進歩の跡を判じつゝ、不斷に其の向上を心掛けて努力せしむるやうに導くべきである。然うすれば自ら努力的興味を生じて單調無變化の運針練習も児童が真に喜んで倦まず携まず努力することになり、實物逢の場合に於いてもその心掛を失はないやうにならうと思はれる。

3. 迅速を主として指導すべき時期

而して尋常六年頃になつてから漸次迅速に縫はせるやうに練習上の要求程度を進めるが至當である。勿論この時期に達しても尙運針を正しくする事については絶えず注意せねばならぬが、次第に練習を重ねて運針の速度を迅速ならしむるやうに導く必要がある。それでこの時期から量の上より見るところの運針競争を時々試みさせるがよい。

如上の方針に依つて大體階段的に繼續的に相當の時間を當て、運針練習をなさしめたならば、今日往々にして見らるゝ尋常六年頃になつてもまだ針の持ち方が正しくないとか、糸の抜き方が拙いとか、縫ひ方に非常な遅速巧拙を生じてゐるなどの弊は大分除かれようと思ふ。

一、部分縫の練習不十分なるには非ざるか

縫ひ方練習について左の三要件を擧げることが出来ようと思ふ。

1. 普通の運針法に練熟せしむる事
2. 部分々々の特殊の縫ひ方を習得せしむる事
3. 普通の衣類の仕立方につきて一通りの了解を得しむる事

而して論理的見地よりするならば此の三要件について階段的に練習を積ませることが至當である。と考へられるが、兒童の心理的要求に鑑みるならば、なるべく早く實物縫を課すべき理由が存するのである。そこでこの兩者を適當に折衷按配する事について大いに考慮せねばならぬ。然るに現今一般に實物縫を過重して部分縫の練習を粗略にする傾があるではないかと思はれる。元より部分々々の特殊の縫ひ方と云つても中には簡單で一度遣らせればその要領を得るものもあらうから、そんな程度のものならば直に實物縫に依つて練習せしむるもよろしいけれども、多くは一度實地に縫はせられた位ではなかく徹底しない。其の技術に熟れないばかりか、その方法すら間もなく忘れられると云ふ事になる場合が少からぬやうである。然れば特殊の縫ひ方を纏めて一時に継続的に練習せしめずとも、或る一種の實物縫を課する以前に先づその特

殊なる部分的縫ひ方のみを部分縫用布で數回反覆練習せしめてその技術に馴れしめ、その方法を確實に了得せしむることに努め、もはや實物縫の際にはその部分々々は兒童が獨立的に作業し得るやうに仕向けることが肝要である。随つて特別に部分縫の練習を要する事項を精査し、之に相當の時間を當てるやうに計畫し、之が標本なども凡そ兒童二人に一個宛位用意して置くといふ風に爲さねばならぬ。

如斯運針練習なり部分縫練習なりに時間を多く充てる事にすると、その結果實地に仕立上げしむる衣類の枚数が少くなるといふを憂ひるものがあるかも知れぬが、それは前にいつた結果過重の誤見に囚はれて居るのである。小學校教育の實績は決して教師が妄りに加力して仕立上げしめたやうな着物の枚数やその種類の如何に依つて判すべきものではない。その作業によつて眞に陶冶向上せしめられたところの、兒童の能率について慎重にその質量を吟味して始めてその効顯を云爲すべきである。兎に角兒童の裁縫上の能率を眞に陶冶向上せしめんが爲には此の部分縫練習の指導が重大な關係を有してゐると思はれるから、宜しく之が研究を進められんことを希望する譯である。

一、仕立方に關する説明が注入に偏せるには非ざるか

今日一般に見るところの裁縫教授には材料の裁ち合せ方、仕立上寸法、標の付け方、縫ひ方の順序等に關する説明が妄りに注入を事として單に在來の方法を機械的に模倣せしむることに止まつて、兒童の應用力が十分に練られてゐない弊が著しいではないかと思はれる。即ち材料の裁ち合せ方についても、其の根本要件たる材料の經濟的利用方法を確實に會得せしめて、

1. 並幅中幅大幅の別に對し

2. 布に損所裏表の存する場合

3. 仕立直しの布を利用する場合等につきて、夫々其適法を案出し得るやうに教授すべきである。然らずして唯單に一種の特定せる裁ち方圖を注入記憶せしめた位で何の甲斐があらう。それで先づ模式的の裁ち合せ方を理會せしめたならばなるべく多く課題して、裁ち方圖法なり材料の積り方なりの應用練習を試ましめるやうにせねばならぬ。この點に於いて特に算術教授や手工教授との連絡が肝要であるが、現今では遺憾ながら其の邊の用意が甚だ不十分である。

仕立上寸法に就いては云ふ云ふまでもなく着用者の身長・肥瘠・骨格の如何と着用上の便否及び用布の利用、各部の調和關係等に應じて之を量定すべきものであるから、實際に一つ身や三つ身物を仕立てる場合等には之を嚴密に考へるまでもなく普通寸法を示すに止めて大體間に合

ふからといつて之が注入教授に満足するが如き事なく、一々その標準寸法の原據理由を明かに理會せしめ、容儀上の格好調和を正しく覺知せしめ、進んで大人物の衣類の仕立上寸法について特異の量定を爲し得る基礎的能力の陶冶に努めねばならぬと思ふ。随つて之が實際教授の任に當るものは唯舊來の慣例を墨守するといふ事ではなくて、各種衣服の仕立上寸法に關する標準を確め之が原據と應用變通の要領とを精査し、其の教授の適法を調査考究する必要がある。

それから標の付け方、縫ひ方順序についても一般に機械的に之を授ける弊があるやうであるが、矢張り其の理由を確實に理解せしむるやうに注意せねばならぬ。手工の所でも云つた通り作業の順序を正しく理解せしむると云ふ事はその作業の全計畫を確める上に、又徒勞を防ぐ上に緊要な事であるから、標の付け方順序なり縫ひ方順序なりは漸次兒童自らその適法を考へ出づるやうに仕向くべきである。なほ標の付け方については往々教師又は母姉等が殆ど付けて遣つてしまつてゐるのを見受けることがあるがこれは宜しくない。之が爲に幾ら時間を要しても上級では必ず兒童自身に理解的に練習せしむるやうに指導せねばならぬ。國定裁縫教授書には仕立上寸法についても、又標の付け方順序なり縫ひ方順序についても一通り記載せられてあるが、その原據理由については少しも解説してないから、實際には能く之を調査考究して妄りに

該書に拘泥することなく適當に教授するやうに心掛くべきである。

斯くて普通衣類の仕立方に關する基礎的了解を確實にし、應用力の練磨に努むるやうにせねばならぬ。

一、裁縫の技術に伴ふ知識の授與啓發は十分なるか

教則に「裁縫は其の材料を日常所用のものに取り之を授くる際用具の使用法材料の品類、性質及び衣類の保存洗濯方を教示すべし。」と示されて居るが、今日一般に是等裁縫の技術に伴ふ知識の授與啓發を忽緒に附してゐる嫌がある。國定裁縫教授書に左の諸項を擧げてその大要の解説を加へられた事はこれが時弊を救ふ上に適切な用意であると思はれる。

尋常第三學年

1. 裁縫用具の名稱使用法及び整理

尋常第四學年

1. 普通衣類の種類

2. 普通綿布の種類

生木綿、晒木綿、真岡木綿、木綿縞、金巾、天竺木綿、キヤラコ、寒冷紗、木綿縮、双子織

瓦斯糸織、絞、飛白、更紗、綿フランネル

3. 普通染色の名稱

赤・青・黄・紫・緑・樺・鴉こら・淺黄・茶・藤ひば・小豆・白・紺・蝦茶・紫紺・鼠・黒

4. 綿布の丈幅

5. 襦袢の種類及び各部の名稱

6. 畳み方及び解き方

尋常第五學年

1. 裁縫用具の名稱及び使用法

烙熨・火熨斗・霧吹及びスプレー等を加ふ。

2. 衣服の目的——身體を保護するため、容儀を保つため

3. 單衣の種類及び各部の名稱

4. 單衣の解き方及び其の整理法

5. 衣服取扱につきての心得——衣服の出し入れ、正しく着すること

衣服の始末

尋常第六學年

1. 裁縫の意義——廣狹二義
 2. 洗濯の仕方——洗濯の必要と方法、洗濯後の整理
 3. 織物の品類名稱及び産地
 4. 袷各部の名稱
 5. 衣服材料の性質及び選び方
 - イ、性質——木綿織・絹織・麻織・毛織・交織
 - ロ、選び方——氣候との關係、健康との關係、着用する場合との關係、職業との關係、男女の別及び年齢との關係調和
 6. 解き方及び其の整理法
 7. 衣服整理に關する心得
 - イ、保存——清潔・汚點拔・整頓
 - ロ、節約——利用・補綴・色揚（以上）
- 處で其の教授の時機方法程度等に關しては更に實際的に注意考案せねばならぬ餘地が存して

ある。

第一に説明を具體的・直觀的たらしむるの用意を缺かぬやうにする事が大切である。その理由はこの説くまでもないことであるが、現に之が説明用の諸種の實物なり標本なり掛圖等を遺憾なく準備してゐるところが少いやうであるから、實際教授の任に當つてゐるものは早く之を整備する事に努力せねばならぬ。織物の標本等は必ずしも裁縫標本として發賣されてゐる高價なものを購はずとも女教師達が少し注意して各自の持ち合して居る小布類を寄せ集めるとか、學校附近の呉服屋や仕立屋に依頼して布の切端を求めるとかすれば尋常小學校に必要な物は容易に集める事が出来ようと思はれる。又掛圖なども可成教師自ら作成して用ふる事にならねばならぬ。教師が然ういふ態度になつて始めて其の説明が具體的ともなり、直觀的ともなつて、能く兒童に徹底するやうになるのである。教師が説明用の掛圖を作つたり標本を整へるのを臆劫がるやうでは如何に口舌の巧を具ふるも到底兒童をして確實に理解せしむることは出来ぬ。

第二に之が教授を實際的たらしむる上に工夫を要する。衣服料の品類性質にしても、衣服の保存方法洗濯方等にしても之を示説するについては、

1. 土地の事情を参酌し

2. 兒童の見聞經驗事項に照し

3. その事項の輕重要否の別を按じて能く其の實際生活に觸るゝやうに教授せねばならぬ。

例へば普通織物の價格を知らせるにも能くその土地々々に於ける時價を調べる必要がある。又地方によつては今猶普通の衣類は各家庭で織つてゐる所が多いから然ういふ地方では實際にその原料代や染賃をば計算して凡そ一枚の着物が幾ら位で出來上るものであるかと云ふ事をも知らしむべきである。また保存方や洗濯方等については兒童の家庭の事情を大に酌量して説かねばならぬ。而して單に説明するばかりでなく家庭との連絡を圖つて可成兒童をして實習せしむるやうに導くべきである。又木綿織の如きは教師なり兒童が日常着用してゐるものについてその地質・染色・縞柄等を吟味せしめて、實際的に常識を練るやうに心掛くべきである。織物の種類等について細目に示せる時期に於いて一度説明を與へたならば後はこれに關して一切顧みないと云ふ風な取扱をするものが少くないが之は甚だよろしくない。常時之が知識の精練啓發に注意して、兒童各自が持つて來る裁縫材料や、教師兒童が着て來る衣類中に地質なり縞柄なりに何か變つた面白いものがあれば、隨時その實物について適當に教示することを怠つてはならぬ。この點は裁縫教授ばかりではない。理科教授でも修身教授でもその徹底的効果を收めんには單に教室にての努力のみではいかぬ。如何なる時如何なる場所に於いても好適の機會を得る毎に生ける實物教授、實地指導を怠らぬやうにすることが肝要である。然るに今日は一般に教授の上ばかりでなく訓練の上にもこの大切な機會的陶冶即ち機會教育なるものを閉却してゐる嫌がある。これは誠に遺憾なことである。

序に云つて置くが或人が「裁縫教師その人の技倆の程度や人柄の如何はその服裝に依つて略推知することが出来る。」と云はれた事がある。これは實にその通りであらうと思はれる。そこで裁縫教師のみに限らず、女教師は一般に常に女兒に對してその仕立方や材料の選び方の生ける標本を提供せるものであるとの自覺と用意を失はぬやうに心掛けられたいものである。第三に他教科との連絡をはかることが肝要である。然かもこれ亦一般に大に缺如して居るところである。それで如何に連絡すべきかの理窟を云ふよりも先づ他教科に於いて裁縫に關聯せる事項が如何に教授せらるべきかを明かにする必要があらうと思ふから、例によつて左に其の主なるものを抄録することにする。

國語讀本

卷の三

蟲ほし 座敷のうちに幾筋もつなをはつて……きものがほしてあります。……あはせ、わたいれ、ひとへもの、かたびら、はかま、じゆばん、おび、もんつきのはおり……私がをばさんからいただいた紫色のはおりは何時までたつても色がかはりません……ゆき、たけ

卷の四

あきなひのあそび その糸は一かけいくらですか……三錢です。
母の心 母はせいだすあらひ物。たらひの中にあるは何、これは太郎のこくらのはかま。母はせいだすはりしごと、ひざの上には何がある、これはおはるのはれぎのはおり。

卷の五

あまの岩戸 天照大神の御弟にすさのをのみこと、いふ氣の荒い神さまがありました。ある時生馬の皮をはいで大神がはたをおらせていらつしやる所へおなげ入れになりました。小子部のすがる 昔雄略天皇がすがるといふ人をおめしになつて、こをたくさん集めて來いとおほせになりました。こといふのはかひこのことで皇后さまがかいこをおかひあそばすためでございます。

卷の六

物さしとますとはかり。物さしにはかね尺とくぢら尺とあり。かね尺はくぢら尺より少しみじかくその一尺はくぢら尺の八寸にあたる。

織物 織物の種類及び各種織物の原料用途のこと。

絹織物・木綿織物・麻織物・毛織物・かや・ふらんねる・らしや・めりんす。

卷の七

手のはたらき(要項既記)

蠶 一匹の蠶の口から出る糸をのばして見ると五六町もあるが、この長い糸を出す蠶が百匹もなければ木綿は、一尺の絹織物を織る絹糸は出來ない。蠶をかつて絹を取り絹糸を織つて絹織物にするまでには大そうな手間がかかる。それを考へると絹織物のあたひの高いのもけつしてひりではない。……我が國は昔から養蠶の盛な國で生絲は外國へ賣出す品物の第一である。

卷の八

働くことは人の本分(要項既記)

松下禪尼 北條時頼の母松下禪尼、ある日時頼を招待せんとて、すゝけたる障子の破れをつくらひぬたり。……總べて物は破れたる所のみつくろひて用ふるときはしばらくは用をなすべきことを若きものに知らせんとてかくするなり。

木綿着物の由來 木綿着物はどうして造りますか。木綿糸はどうして出来ますか。綿は何からとりますか。綿の木はどこに出来ますか、又どうして出来ますか。木綿織物に紺や淺黄やかすりや其の他色々な縞があるのはどうしてこしらへるのですか。藍は何から取りますか。

卷の九

注文狀 御差出の編物二十反本日到着。右は地質といひ縞がらといひ此の地方には賣行よろしかるべしと存せられ候間なほ三十反御送り下され度其の節別に老人向きの紺がすり上物十反だけ御見立の上二口とも本月十五日までに御送り相成度願上候。

卷の十

模様と色(要項既記)

あいぬの風俗 男子も女子も寒き時は犬の皮などにて造れる羽織の如きものを用ひ、又あつし織の短きつゝ袖を着、足にもあつし織のきやはんをはく。あつし織とはおひようといふ木の

皮を細く裂きて織りたる物なり。

卷の十一

紡績(要項既記)

朝鮮の風俗 男はゆるやかな股引をはき胴衣を着けて其の上に長い上衣を着る。上衣と股引は冬でも多く白いのを用ひる。女子は上衣を着て西洋婦人の用ひる様なゆるやかな袴を着ける。

卷の十二

國産の歌 絹織物の産地には京都西陣始とし、群馬の桐生伊勢崎も古く其の名を知られたり。近年とみに産額の増大せしは北陸の福井石川富山なる羽二重織の輸出品。

主婦の務 急ぎの場合にも混雜なく暗き時にも手探にて用を足し得る様に極りよく整へ置くは主婦たる者の務なり。……食器衣服等何事にも清潔を旨とするは衛生上にも必要なことなり。……四季寒暑の變り目にはとりわけ衣服飲食に氣を附くべし。……日々の暮しは「入るを計つて出づるを制す。」を第一義とす。家の収入を基として豫め其の支出を定め衣服飲食の費皆其の範圍を越ゆることなかるべし。

修身科

尋常第二學年

仕事にはげめ 父母教師などよりいひつけられたる仕事は云ふまでもなく其の他何事にも己が爲すべき仕事は常によく勵みて之を爲すべし。決して骨惜をし又は等閑になし置くが如きことあるべからず。

例話、二宮金次郎

辛抱強くあれ もつれたる糸も辛抱強く解けば解き得らるゝなり。難き仕事も中途にて止むることなく倦まず撓まず辛抱してなせばなし遂げ得らるべし。されば諸子は幼き時より辛抱強く習慣をつくらざるべからず。

尋常第三學年

規律 規律を守ることの大切なることを知らしむ。例話、渡邊登。

儉約 儉約とは何物をも無用に費さぬことにて、吝嗇とは用あることにも之を惜しみて使はぬことなり。諸子はよくこの別をわきまへて儉約を守るべし。例話、徳川光圀。

尋常第四學年

職務に勉勵せよ 職務に勉勵すべきことを知らしむ。例話、豊臣秀吉。

身體 身體を健康ならしめんには常に姿勢に注意し胸を張りて頭を垂れぬやうにし……薄暗き所にて書物を読み裁縫をなすなどは目の爲めによろしからず。……衣服は寒暑を凌ぎて身體を保存するものなれば、常に之を清潔に爲し置かざるべからず。

尋常第五學年

産業を興せ 上杉鷹山領民に養蠶を奨励し更に絲職業を興して婦女子に職を興へんと欲し越後より機械に熟練せるもの數人を雇ひ入れて其の法を教へしめたり。これ米澤織の始なり。

進取の氣象 人は何れの職業に従事するも進取の氣象なかるべからず。進取とは常に撓まず屈せず進んで事を爲すをいふ。例話、伊藤小左衛門の製絲養蠶業の經營苦心。

禮儀 言語舉動を慎むのみならず、容儀服装につきてよく注意せざるべからず。頭髮手足等を不潔になし、衣服を亂雑に着、紐帶等の解けたるを結ばず、ぼたんの外れたるを其の儘に爲して人に接するが如きは總べて禮を失せるものなり。

習慣 善き習慣を造るの道は常に己に省み善き行を努めて悪しき行を避くるに在り。例話、龜鶴臺の妻及び松平定信の事。

女子の務 女子は人の妻となりて夫を助け一家の世話をなすものなり。妻となりてはよく夫に事へて貞節を守り舅姑を大切にして孝道を完うし、子女を教養して其の道を盡すべし。家政を整ふるはまた妻たるもの、重大なる務なれば深く之に意を用ひて、夫をして内顧の憂なからしめざるべからず。例話、三宅尙齋の妻のこと。

尋常第六學年

産業に工夫をこらせ 産業に工夫を凝して常に之が改良進歩を圖るやう心掛けしむ。例話、井上でん女のこと。

勤勉 勤勉の精神を養ふことに努む。例話、伊能忠敬。

男子の務と女子の務 修身の教は男子も女子も同様に守らざるべからざるものなれども、殊に男子は剛毅果斷にして女子は溫和貞淑なるをよしとす。禮儀作法は男女ともに忽にすべからず。知識をひろむることも亦男女共に大切なることなれば、各其の分を盡すに必要な知識を取得すべし。……男子と女子とは其の務を異にするものなれば各其の本分を忘れざるやうにすべし。女子の務を以て男子の務よりも軽く且つ小なるものとなすは心得違なり。

地理科

尋常第五學年

東京府 八王寺・八丈島より絹織物を産す。

八王子は養蠶地の中央にあつて機業が盛に行はれ、御召・絲織等の絹織を産するのである。

八丈島には養蠶機業共に行はれて特に黄八丈の名が著れて居る。

埼玉縣 川越は秩父地方と共に絹織物を産するを以て名高し。

特に秩父太織は品質が堅實で多年の使用に堪へるから廣く愛用せられて居る。

群馬縣 桐生は多く絹織物を産す。

觀光繻子・勾配甲斐絹の創造が世に著れてゐる。

伊勢崎は桐生に亞ぐの産地で夙に地質堅牢價格低廉なる伊勢崎縞を産するを以て聞えて居る。

栃木縣 足利は絹織物の産地として知らる。

この産で最も需要が多いのは風通御召繻珍帯地等である。本縣下の真岡からは盛に晒木綿を出して居る。

福島縣 福島附近に多く羽二重を産す。

外人には我が羽二重をば手巾・襟飾・帽子飾・寝具の上履・襯衣・衣服の裏地・扇子地張・洋傘地等として恰も邦人が金巾を使ふが如く廣く愛用せらるゝのである。

宮城縣 仙臺より仙臺平を産す。

品質堅牢、染色純良、袴地として賞用せらる。

山形縣 米澤より絹織物を産す。

米澤糸織の名が最も世に著れて居る。

山梨縣 甲府より生糸を産す。郡内は絹織物を産するを以て著る。

郡内産の所謂甲斐絹(海氣)が最も世に知られて居る。水に潤はして織つてあるから、地質が薄いけれども極緻密で大に外人の嗜好に適して居るさうである。我國では古くより蒲團地として重用せられ郡内蒲團の名が通つてゐる。近時は又洋傘地として織り出すものが多い。

愛知縣 名古屋市及び附近の地に綿織物を産すること多し。

白木綿・絹綿交織・二子織等はその主なるものである。

長野縣 松本は上田と共に繭種紙の重なる集散地にして諏訪湖附近は製絲業の殊に盛なるところなり。

石川縣 金澤より羽二重を産す。

全部輸出羽二重であつて、主に横濱を経て米國に輸出して居る。

福井縣 福井より羽二重を産す。

滋賀縣 長濱は縮緬の産地として著る。

普通に之を濱縮緬と稱して居る。

本縣下よりは多くの麻布を産す。その産額は本邦第一である。

京都府 京都市の織物は最も著る。

製品の精巧を以て著れ特に紋織・縮緬類の産出が多い。友禪染の業亦盛である。

和歌山縣 和歌山市より綿フランネルを産す。

特に近時流行發達せる捺染ネルは意匠の斬新と技術の精巧とを以て著れてゐる。

大阪府 大阪市は商工業盛なり。

本府には特に紡績業が盛に行はれて居る。

尋常第六學年

愛媛縣 松山より伊豫絣を産す。

漂白が完全で染色純良・地布緻密にして價が低廉なことはこれが特色である。

福岡縣 福岡は博多織を名産とす。久留米は久留米絣に名高し。

久留米絣は井上でん女の發明にかゝる。始は意匠も種類も單純で雪降霞織等でん女創意の物の外は染織上専ら手数を要しないものゝみを撰んで居たが、漸次繪絣・貫物・小絣・相中等と意匠が進歩發達して各種の新柄が織出されるやうになつた。

鹿兒島縣 鹿兒島より薩摩絣を産す。大島は紬の産を以て著る。

地質が堅緻で染色が容易に脱褪しないのは薩摩絣の特長である。元琉球より傳つたもので皆紺絣である。其の染め方は他と異なり、初め土中に紬を埋めて其の質を變せしめ、次に土を洗ひ落して再び土中に埋め度々同一方法を繰返し愈々褪色しないやうになつてから藍で染め上ぐるのである。

大島紬は品質が堅緻で高雅なるが故に主に上流社會に賞用されてゐる。

沖縄縣 那覇は琉球絣を名産とす。

清國 我が國へは綿を輸出し、我が國よりは綿絲綿織物を輸入す。

印度 我が國の紡績業に用ふる綿は主としてこの地方より來る。

フィリピン群島 マニラ麻を産する事多し。

英吉利 我が國へは綿織物を多く輸出す。

佛蘭西 夙に美術工藝を以て知られ絹織物の製造亦甚だ盛なり。

露西亞 麻の産出甚だ多し。

伊太利 生絲を産す。

北米合衆國 我が國よりは多く生絲羽二重を輸入し、我が國へは綿を輸出す。

一、裁縫教授に於ける訓練的指導は十分なるか

裁縫教授は女兒の訓練の上に特に密接な關係を有するものである。即ち裁縫教授の場合には、

1. 節約利用の習慣を養成する上に
2. 勤勞的習慣を養ふ上に
3. 正確綿密秩序整頓等の習慣を養ふ上に
4. 作法練習の上

等に夫々好適の機會が多いから當然これが訓練陶冶に努力せねばならぬ。然れば左に各項に

對する實際上の注意要件を列記せん。

節約利用の習慣養成は女兒の訓練上殊に大切な事である。女兒が將來成人の後一家の主婦となつて家務一切を處辨する場合に於いて、其の任の適否は一に節約利用の思慮習慣の有無に由つて定るといふも過言ではなからうと思ふ。

抑も節約利用の習慣を養ふといふ事は、一面に於いて利用厚生 of 思慮を練ると共に、一面に於ては濫費贅澤の弊を生せしめないやうにする事を意味せるものである。然れば常にこの兩面の指導に注意せねばならぬことは勿論であるが、實際に諺に「一文惜みの百失ひ。」と云へるが如く裁縫教授に於いて糸屑や布片の利用を奨励しながら、却つて材料の美を競ふたり、妄りに流行物を追ふやうな弊風の打破を等閑に附せる嫌がありはせぬか。この點は實際家の先づ大に省慮せねばならぬことであらう。即ち節約利用の消極積極二面の指導陶冶に遺漏なきやう戒心すべきである。

材料の裁合せ方を教示する場合にしても經濟的利用の理を能く辨へしむるやうに注意するばかりでなく、兒童をして材料の質如何に不拘、技能の練磨を樂むと云ふ風を助成し損所があれば之を繕つてから仕立てる。古物ならばその洗張りをも自ら手傳つて喜んで之を用ふる。袋物

細工等に用ふる布片でも別に新なものを求めしめず、ハンカチの古いものをよく洗つて簡單に絞染にして用ふるとか、布端の餘を利用するが如く指導して、以て利用の能を得しむると共に濫費贅澤を戒むることに努め、常時教師自ら之が範を垂れて兒童を率ゆるやうに心掛けねばならぬ。

なほ節約利用の事に關しては材料の選び方なり縫代、縫揚等についての經濟關係をも確實に説示する必要がある。又廢物利用の方法を授けると共に妄りに廢物を生ぜざるやうに注意せしむることが肝要である。

勤勞的習慣を養成するについて注意すべき事は、前節手工の條で大要述べて置いたが、裁縫の如き作業を根氣よく精出してする習慣を幼時より練成する事は特に女子にとつて大切な事であるから、漸次學年の進むに隨つて作業時間を増加し一心になつて口を閉ちて手を働かしむる習慣をつけることに大に努めねばならぬ。然うして俗に「尻やけ」といはるゝやうな飽きつばい弊習をば根絶したいものである。それについては是非考慮せねばならぬことは作業の分節問題である。

往々見るところでは一寸説明示範して作業を命じ四五分間経つと中止せしめて更に説明を加

へ、又作業に移つて間もなく再び中止せしめて注意を加へたり、不徹底な一般的批評を行ふが如く連続して作業せしむる時間を短くするものが多い。然かも之は兒童の認識力なり體力の程度なりに鑑みて、然う爲さねばならぬといふ確かな理由に依つて斯く取扱ふのではなくて、漫然作業前の示範説明が不徹底であつたり、作業前に必ず注意を加へて置くべきことをば開却して居たり、個人的に批評せねばならぬことを一般的に扱ふなど云ふやうな事があるために、自然に作業の分節を小刻みにする弊に陥つてゐるものが多いやうである。之は技術の練習の上から云つても、また兒童をして獨立的に作業せしむる上から見ても、勤勞的習慣を養成せんとする上から考へても甚だよろしくない事である。凡そ作業は兒童認識力なり體力の許す限り可成連續して之を爲さしむる時間を擴大して且つ自動的に行はしめねばその作業實習の効果を大ならしむることは出来ない。それでその示範を的確にし、その説明を簡明にし、その實習前の注意指示に些の遺漏なきやうに注意して、一度作業に着手せしむれば特殊劣等の兒童の外は悉く獨立的に作業し得るまでに、作業の順序計畫要領に關する示説の徹底を期し、以て實習作業は能ふ限り長時間連續的に行はしめ、その間教師は主として個人的指導に努力するやうにするがよい。既に尋常五年頃にもなれば少くも三十分間位は一心に撓まず縫ふやうに導かねばなら

ぬ。それも教師が威壓を加へていや／＼爲すのではないのであるが、今いふ通り兒童が作業そのものを能く了解して獨立的に作業し得るやうに仕向け、一方では前から云ふ通り努力的興味を惹起に努めるならば、兒童は知らず／＼熱心に作業するやうになることは疑ないことである。彼の作業に氣合が乗らぬとか、作業に關係なき私語に耽るなどい事は多くは兒童をして作業の計畫を解せしめず機械的に受動的に作業せしめて、兒童の自己省察を伴はしめないところの指導の弊に基因するものと考へられる。

次に正確綿密秩序整頓等の徳性涵養についても、現状では遺憾な點が少くないやうに思はれる。元來兒童は一般に功を急ぐものである。爲めに動もすると正確綿密を缺くやうになる。糸の留め方にしても扱き方にしても丁寧を缺き針目が揃はずとも縫筋が歪まうと早く仕上げればよいと云ふやうな弊に陥り易いものである。そこで既に運針練習や部分縫練習について云つた通り常住不斷に正確を第一義として練習せしむることに努め、意に滿たぬところがあれば自から進んで幾度でも遣り直すやうに指導すべきである。かくて綿密の習慣も正確を尙ぶ徳操も共に養成せらるべき譯である。

又衣服の仕立方は一部分に缺點を生ずると之を直す爲には其の局部のみならず他の正しき部

分までも解いて縫ひ直さねばならぬ場合が多く、且つ作業の正しき順序を追はねばならぬ関係が存し、更に色々の材料や用具を使ふところから秩序整頓を重んずる習慣を養ふ上に誠に都合が宜い。然れば之亦教師が常にその躰け方を閑却してはならぬ點である。

それから作法練習の上にも十分注意を拂ふべきであるが、之については前述作法教授の條を参照せられたい。

○つぎ足袋やこれぞ世帯の持ち上手

紫 紳

○人も世に新くや寒苦を凌ぐ梅

藍 白

○世の中の人は何とも石清水清き心は神ぞしるらん

女教師の爲に (終)

大正七年十月五日印刷
大正七年十月十日發行

【定價金二圓五十錢】



女教師の爲に

著者

三橋節

發行者

東京市京橋區南鍋町一丁目二番地
隆文館圖書株式會社

印刷者

木代表者 松岡達
東京市麴町區有樂町二丁目一番地
吉原良三

印刷所

東京市麴町區有樂町二丁目一番地
報文社

發行所

東京市京橋區南鍋町一丁目
振替貯金口座東京八五三番

隆文館圖書株式會社

(電話新橋區一七八〇番)

文學士 青木武助先生 助教授 一宮榮春先生共著

小學校歴史教授及教材の研究

小學校に於ける實際教授者に對して、不斷の參考と、咄嗟の相談對手とならんことを、本書は、特色を有す。

- (一) 書を二分して前半を理論的組織的研究にあて、後半を實際資料の記述に用ひたり。
- (二) 前半に於ては、歴史を過去の肥録とする理想を破りて國民心理の發現と斷じ、講演的教式を排して思索的教式を唱道せり。
- (三) 後半に於ては教授上の疑問に答へ、歴史の常識を高め、研究趣味を養成せんとして正確なる資料を蒐集したり。
- (四) 全體に於ては教授能率を高むるに必要なる注意を拂ひて排列に新工夫を加へ、挿畫を豊富にして了解に便にしたり。

(版再忽)

菊判 總定小
判 畫洋價包
紙 電布金裝
數 氣製三料
六 版箱圓金
八 數入二十
〇 十美十二
頁 面本銀

のも成集の館文隆

著大の力努年十生先助武木青士學文

最新！ 最精！ 最大！ 而して最廉なる大歴史！

校訂 大日本歴史集成 全三卷 續大日本歴史集成 全二卷

著者一切の職を抛ち、我々本書の編纂に從ふこと前後十年、神代より最近日獨戰爭に到る迄國史の首尾を盡して正續五卷六千數百頁の麗然たる大著は、茲に全く完成を告げたり。

▽附錄下卷 文部省檢定試驗日本史料問題第一回解答手引

上卷	紙數千五百	金四圓五拾錢
中卷	紙數千三百	金四圓五拾錢
下卷	紙數千二百	金四圓五拾錢
續上卷	紙數千四百	金四圓五拾錢
續中卷	紙數千四百	金四圓五拾錢
續下卷	紙數千四百	金四圓五拾錢
各卷	紙數千四百	金四圓五拾錢
全書	紙數千四百	金四圓五拾錢

菊判總布綴
箱入美本
挿畫地圖等
數百面挿入

のち成集の館文隆

輿論の聲

●帝國教育評 (前略) 今本書の特色二三を擧ぐれば、大體に於て古代に略にして近代に至るに従つて詳しく書かれてある。殊に我國に關係ある部分は非常に詳しい、又印度の如き從來歴史書に附却されて居た部分が特に詳述してある、尙一國の盛衰興亡と賢哲英雄の事績を敘する外文化の變遷發達、國民傳說等をも集め、眞に『集成』の名に背かぬ……

●大阪朝日新聞評 (前略) 本文に於て大要の史實を述べ補註に於ては史料其他必要なる參考材料を頗る詳密に蒐集し傳説地理風

俗等一般的歴史には記載せざる材料までも網羅したれば中等學校の教師の參考史書として甚だ便利に、初學者にも趣味と利益とを與ふる良書なるべし……

●讀實新聞評 (前略) 史論の異説あるものは悉く網羅するに努め、重きを國民性の進展、經濟上の事情に置き、學校に於ける教育用にも適用し得るやう用意し、詩歌などを挿入して趣味を助けたるなど教學に過あらず、上巻には上古史より三國、晉、南北朝迄を收め、文檢東洋史問題集を附録とせり……

▽附録讀史餘情

□文部省檢定試驗東洋史料問題(第一回以下)集▽

●櫻井時太郎先生著

〔上卷三版・中卷再版〕

東洋歴史集成 全二卷

菊判二千五百頁
洋裝布綴美本
上四冊五十錢
中三冊八十錢
送料金十六錢

のち成集の館文隆

●文學士 坂本健一先生著

上卷再版

西洋歴史集成 全三卷

菊判二千二百餘頁
洋布綴箱入美本
定價四圓五十錢
送料金十六錢

邦文の西洋史にして泰西の名著に

比肩し得べきは本書あるのみ

西史專攻の某少壯學士本書を評して曰く「著者の學殖の廣汎なるに今更感嘆す。史實正確にして詳細なるは勿論、吾邦の斯る學術的著書には殆ど見難きものをも收録したり。ペーコンの「古の史學分類法」エデン及トロイの地理的討究、イリヤド及オデッセイの梗概の如き一例也。又讀者に深切なるやプラトンの短評及著述の項下に木村氏の譯書の事を擧げ、ジュリアノにはメレヂョフスキイ三部作として有名なる「神々の死」の譯文を收め、松本氏島村氏の譯書の事迄抜目なく云及びた。凡てが此の調子にして、時に和漢の史籍に遡りて考證に求めたる等眞に此の著者ならでは不可能の事也。元來邦人は眞實なる研究書と云へば直ちに無味乾燥なる事實の羅列也と述了する譯解あるが、實は本書の如く趣味深く、而も博引傍證、理路整然、史籍として一毫の權威も損せざる様編述し得。外國の名著と云はるゝものは概して然り。本書はそれに比肩し得べき世界的名著と云ふの價値あり。邦人の手にも斯る書の出来る様になりたるは學界の慶事にして、隆文館諸集成書中に於ても一頭地を抜く出來榮也。」云々。

□□□賜 天覽 台覽□□□□□□□□□□
文學士 坂本健一先生譯

ヘロドト
ス原著 **世界最古史**

菊判八冊八百頁
總布綴箱入
定價二圓五十錢
送料十二錢

世界的國
史家にして誰かヘロドトの名を知らざらん。此書、彼が自ら當時の世
界を探究して一々史實を録せるもの、年代を言へば吾が「古事記」より
古き事實に一千百餘年也。一部の青史、地中海頭太古漠漠の世界を傳へ
て、後世の史家或は「歴史の祖」と仰ぎ、或は世界的國史と呼ぶ。譯者
は之を壯重典雅、古趣豊かなる文體に移植して原書の面影を夢寐せしむ。
寔に翻譯界一大光彩也。
寶たるべ
き一大名
著の移植
畏多くも本書を乙夜の覽に入るや、東宮御所よりも亦特に台覽を賜ふ
との恩命を蒙りぬ。維れ獨り譯者及本館の光榮のみならず、又著作界を
通じての光榮にして、聖恩の擴大なる香只感泣して應へ奉るの外なき也。
希臘神話・アラビヤナイトよりも更に奇なる史實の集録也。

倫敦大學教育學教授 ジョン・アダムス氏原著
早稲田大學教育學教授 中島半次郎氏翻譯 **【大好評】**

教育學說の進化

菊判紙數七〇頁、總布綴箱入美本、金貳圓八拾錢、送料拾貳錢

聲名歐
米の讀
書界に
喧しき
良著述
の邦譯

本書は英國に於ける哲學史叢書の一として、千九百十二年に刊行せられたるも
のにして、英米の讀書界に在りては最近の名著に數へられ居れり。
筆を有史以前、既に教育學說の萌芽の存せしことを認め得ることより起し、繼
いで希臘時代より中世紀に亘り、社會的及び個人的の教育目的に依り、專門教
育の施されたる論議を尋ね、進んで近世に入り、形式的陶冶より始め、人文
主義、實科主義、自然主義、理想主義及び科學的機械觀の發展せし経路を明に
し、其間著者の鋭利なる批評に依り、各學說の長短を赤繩々に摘發すること共に、
各學說間の關係を明にし、又各學說が教育學說全體の進化に於て占むる位置を
究め、最後に今後の教育學說の發展し行くべき方向を指摘せり。教育學說の眞
實を明にし、其歸趣を究めんとする者には絶好の參考書たり。譯文的體にして
流暢平明、殆んど翻譯臭を帯びず十分に讀み答へあふ書なるも、難解にあらず。
完全なる教育學史として江湖の精讀を望む。

●ルツソー原著 三浦關造先生譯 十八版

縮刷 エミール

ボケツト形
洋装ソフト
八百數十頁
金壱圓五十錢
送料金八錢

ルツソーは近代思想の父也。而してエミールは其の代表的著作也。「自然に還れ」の一語を標榜して虚飾と情實に化石したる當年フランス社會の病弊を剔抉し、新教育法を提唱す。幼時期、官覺的教育、智的教
育、道徳宗教々々、女子教育の五項に分ちて、形式を小説に假りたれば興味津津の裡に諷刺し得べし。佛
國大革命の赤色旗之に淵源して發り、アメリカ獨立の烟塵之に胚胎して騰る。筆の力も亦偉ならずや。

枯死せる教育方法及制度に對する
反抗と革命の焰々たる鋒火を見よ

音に遠く歐米の歴史を討究するに不及、彼が烈々噴火の如き眞精神は吾邦思想界にも大旋渦を捲起した
り。「民約論」移植せられて明治初年の民権運動となり、「懺悔録」の譯成りて文藝の新主張起りぬ。而し
て茲に本館「エミール」の譯を出版するや甚大なる歡迎を受けて教育界に強烈なる新刺激を與へしは、夙
に讀者の認知する所也。重版又重版、今や原版磨滅して新たに縮冊なりぬ。敢へて大方の讀者子にす
む。

▲三浦關造先生譯著

口繪ト翁と子供

小學教師としてのトルストイ

四六判三百餘頁
洋装布綴箱入
定價金壱圓
送料金八錢

藝術家としての杜翁、宗教家としての杜翁、人道主義者としての杜翁は吾邦思想界にも紹介し盡されて遺憾
なきに近し。されども未だ小學教師としての翁を紹介したるもの有るを聞かず、此の北歐の大偉人にして
初等教育上にも卓卓拔の見識無からんや。常に教育界に權威的著述を提供して、國民思想の開拓を以て任
ずる本館之を慨し三浦先生に依頼して本書成る。近時の好著として敢へて大方に薦むる所以茲にあり。

レオトルストイ著 網島 梁川先生序 小田頼造先生譯

人道主義

菊判五百餘頁
洋装美本
金九拾五錢
送料金八錢

吾邦思想界、自然主義は既に古りたり、享樂主義は既に古りたり。新浪漫主義、神秘主義又既に顧みざられ
んとして、獨り人道主義の提唱の盛んなるを見る。本書の譯者は明治四十年の昔に於て今日此の事あるを
先見して本譯者を公にしたり。實に本書は吾邦人道主義の急先鋒たり、最先驅者たる光榮を有す。

理學博士 三宅驥一先生
理學博士 草野俊助先生

世界共通の最高教科書譯出さる

ストラスブルガー植物學

上卷第一冊 形態學
上卷第二冊 生理學
下卷第一冊 隱花植物
下卷第二冊 顯花植物

本書は獨逸植物界の泰斗ストラスブルガー外三氏が大學在職中多年講義の経験に基き、同國大學用教科書として編纂されしものにして、而も形態、解剖、生理、分類の各部門に互り、記述の繁簡宜敷を得たるもの本書の如きは稀なるを以て、一八九四年初刊以來廣く世に歡迎せられ、殆ど逐年増補改訂して今や第十二版の公刊を見るに至り遂に英米其他の諸國に翻譯せられて今や世界共通の最高教科書たるに至れり。三宅博士は親しくス氏の下にありて植物學を専攻せられたる人、歸朝の紀念として此の絶好唯一の書を發し來り、數年間の努力を之に注ぎて遂に本書を譯出せられたり。邦語の植物書敢へて少きにあらざるも本書の如きは蓋し他に見る可らざる權威書也。

四六二倍大判、總布綴美本
原著者自筆及自筆序文入
上卷第一冊 金二圓二角
上卷第二冊 金二圓二角
下卷第一冊 金二圓七角
下卷第二冊 金二圓七角
(送料各冊 金十二錢)

學界の一大權威

●植物學雜誌評 ストラスブルガー氏の植物學教科書は一千百十四年の初刊以來既に十二版を重ね、英伊露の諸國語に翻譯せられ世界的聲價を博しつゝあり。(中略)挿圖は原著者の執筆に成り、其叙述の巧、布置の妙以て全篇の壓巻を稱すべく、譯文亦妥當流暢、術語には一々英獨の原語を挿註せるが如き用意の深きを見るべし。

●現代の科學評 本書の原著は有名なるものにして世界各國に博く行はるゝ其教科書なり、我が三宅、草野兩博士之れを邦語に移して公にせらる(中略)譯筆正確にして而も輕妙に、挿圖は豊富にして而かも甚だ鮮明なり。植物學に志すの士は勿論各學校に必ず備ふべき書なりとす。

●東京朝日新聞評 原書は植物學教科書として好評噴々たるものなり、初め獨逸大學教科書の目的を以て、ストラスブルガー、ノル、シエンフ、シュムパー四氏が同國ボン大學在職中多年の経験に基き各自分擔し編纂せしもの、(中略)殆んど遂語譯なるも精確原文の意を失はず(中略)又挿圖は原書出版時より悉く譲受けたる原版に據りしを以て極めて鮮明緻密なり(下略)

七百餘面の挿畫は凡て原著出版會社に託して調製せしめたるものなれば日本に於て複製せるものと同視すべからず

獻身的前空の出版

のも成集の館文隆

角田政治先生の大著 上卷十五版 下卷十一版

最大日本地理集成 卷二全

▲紙型全部磨滅 著者の著書「大日本地理集成」は江湖の急流底止する所を知らず、遂に紙型磨滅して本書が出版界異色の記録を作りたる事を事實的に證明したり。

▲第三回の改稿 斯くの如くにして尙ほ江湖の熱求竭まず、一日も其の絶版を容さざるの有様なる一冊なるを今回全二冊千八百頁の大冊としたり。

▲事實上の最新 地理書は歴史と異り、其の領域平面的にして變動一日も休止せず。されば地理書は常に稿を改むるの要ありて而かも容易に之をなし難し。然るに本書は今回此大改稿を成したれば、最近の變動を悉く網羅し、事實上最新の地理書として他に匹敵なき自負を擡ぶることを得。

▲老練なる編纂 地理は著者に於て其の生命の全部也。而して稿を改むること數回、其の経験は遂に編纂法を改善し、更に新機軸を出し、精練之を重ねて材料の蒐集記述の按排實に老練巧妙を極め、最も整理的組織的ならしめたり。

菊判紙一冊、挿畫數百面
總地圖十數葉、挿畫數百面
上卷 金參圓參拾五錢
下卷 金參圓參拾五錢
（小包料各十六錢）

のも成集の館文隆

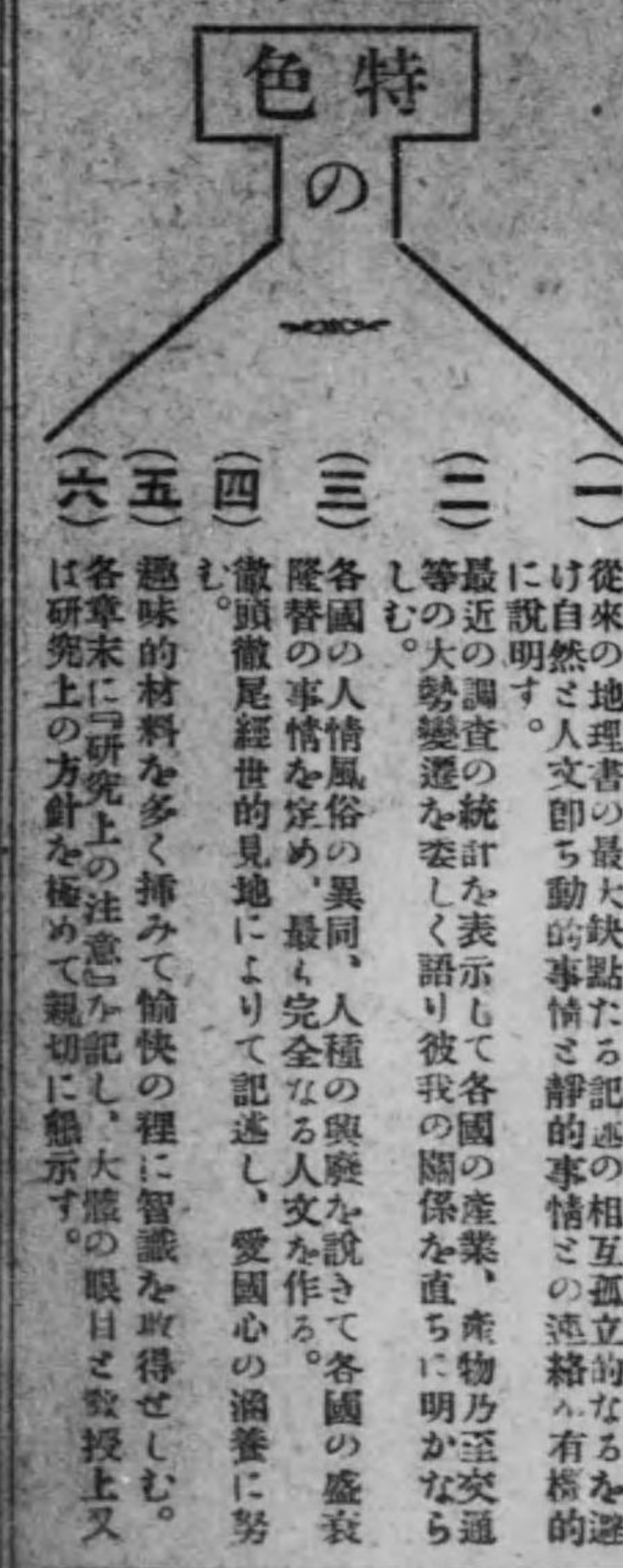
角田政治先生著

外國地理集成

總紙數 一千七百餘頁

上卷十六版 三色版口繪一葉、寫真版口繪數葉、組込地圖及風景風俗木版、寫真數數十面、紙數八百餘頁、菊判總クローズ綴金字入、製本高雅堅牢頗美本

下卷十六版 三色版口繪一葉、石版數十度刷口繪一葉、寫真版口繪二十四頁、組込地圖風俗其他挿繪數百個紙數九百餘頁、菊判總クローズ綴金字入、製本高雅頗美本



價定卷下	價定卷上
錢拾八圓參金	錢拾八圓貳金
錢六十料送郵	錢二十料送郵

終